

チャペル週報

No. 21

2012.11.5 ~11.9

求めなさい。そうすれば与えられる。
探しなさい。そうすれば、見つかる。
門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。
だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、
門をたたく者には開かれる。

(マタイによる福音書7章7-8節)



神戸三田キャンパスI号館

関西学院宗教センター

☆チャペル・スケジュール☆

時間 10:35～11:05 場所 各学部チャペル

- 11月5日(月) 聖和 聖書物語「ラザロの復活」
- 11月6日(火) 神 大 和 康 彦 (神学研究科M2)
文 Andreas Rusterholz (宗教主事)
社 秋の音楽チャペル③ バロックアンサンブル
法 音楽チャペル ハンドベルクワイア
経 上ヶ原ハビタット②
商 和 田 充 夫 (商学部教授)
国 平 林 孝 裕 (宗教主事)
聖和 ゴスペルクワイアP.O.V.
総 上 野 真城子 (総合政策学部教授)
- 11月7日(水) 神 <キリスト教音楽に触れよう⑤> 水 野 隆 一 (神学部教授)
社 宗教総部によるスチューデントチャペル
法 English Chapel Christian M. Hermansen (宣教師)
経 「アジア学院の働きを覚えて」 Jonathan McCurley (アジア学院)
商 音楽チャペル ハンドベルクワイア
人 讃美歌を歌おう 嶺 重 淑 (宗教主事)
国 音楽チャペル バロックアンサンブル
聖和 田 淵 結 (教育学部宗教主事)
理 学生礼拝 理工学部聖書研究部
総 村 瀬 義 史 (宗教主事)
- 11月8日(木) 神 向 井 考 史 (神学部教授)
文 音楽チャペル ハンドベルクワイア
社 動詞シリーズ「つながる」① 高 原 基 彰 (社会学部助教)
法 ボランティア活動の勧めI 上ヶ原ハビタット
経 人間を考える③ 本 郷 亮 (経済学部准教授)
商 水 戸 考 道 (法学部教授)
国 Craig William Mark (国際学部准教授)
聖和 収穫感謝礼拝「『あしなが育英会』と『感謝』」
総 福 田 豊 生 (総合政策学部教授)
- 11月9日(金) 院 樋 口 進 (宗教センター宗教主事)
神 <震災を覚えて⑦> 柳 本 伸 良 (神学部4年) 柳 本 和 良 (神学部4年)
文 English Chapel Andreas Rusterholz (宗教主事)
経 舟 木 讓 (宗教主事)
人 共に生きる⑭ 川 崎 眞理子 (関西学院大学非常勤講師)
聖和 実習報告「児童館実習を終えて」
理 「畏敬の念」松 木 真 一 (宗教主事)
-

◇ランバス早天祈祷会 毎金曜日 8:20～8:40 ランバス記念礼拝堂 (上ヶ原)

11月9日(金) 教育学部のために 長 島 礼 (教育学部専任講師)

留学の七箇条

Teja Ostheider

ご存知の通り、関西学院が2014年に創立125周年を迎えます。それとは比較にならないほどささやかな出来事ですが、その2年後は小生の50歳の誕生日ならびに来日25周年記念の年となります。愛車のバイクを売り片道の航空券を手に入れ、私費留学生として京都にやってきたのは25歳の秋でした。

留学で得ることは、生涯にわたってかけがえのないものになることはいうまでもありません。一方、近年日本の若者が留学に対してあまりにも消極的になっていることも周知の事実です。大学教育の第一目標を「就職」としがちな社会情勢は大きな妨げになると考えられます。この風潮に負けず、私は学生たちに留学を強く勧め続けてきましたが、「外国」そのものに対して、「好奇心」より「不安」を抱く人が少なくないように見受けられます。主に「違い」を強調してきた日本の「異文化理解」教育は、いわゆる「世界住民」に求められている多文化理解力につながらない場合が多いことはその背景として指摘されます。また、「日本に來られる留学生には日本の良さを覚えてもらいたい」と言いながら、「海外に渡る日本人には母国の良さに目覚めてほしい」…といった多くの人の態度も疑問に思います。このような一面的な教育や自己文化中心的な考え方を問い直し、互いの共通するところに目を向けられるようになるためには、海外での学生生活は貴重な機会であると、個人的には考えています。以下、留学を考えている学生に送りたいメッセージとして、「留学の七箇条」を作成してみました。教職員の皆様もぜひご一読下さい。

留学の七箇条

- 第一条 「お金がないから」や「親が反対だから」ではあきらめない。
- 第二条 「お金があるから」や「皆がやっているから」の留学はあきらめる。
- 第三条 「～人^{にほんじん}」としてではなく、「自分」として留学する。
- 第四条 現地では辞書を持ち歩かない。
- 第五条 人の真似はする。
- 第六条 「違い」ではなく、共通点に目を向ける。
- 第七条 味噌汁は持っていかない。

(法学部教授)

●2012年度 人権教育研究室研究部会公開研究会

メインテーマ：「今ここにある『貧困』の現実」

パート1 「若者」を取り巻く現場から考える

トークセッション

と き：11月16日(金) 15:10～18:00

と ころ：関西学院会館「風の間」

発 題：佐野章二氏（『ビッグイシュー日本』代表）

肥下彰男氏（大阪府立西成高等学校教諭）

川口加奈氏（『Homedoor』理事長）

パネル展示（『ビッグイシュー日本』、『Homedoor』活動紹介）

と き：11月12日(月)～11月16日(金)

と ころ：関西学院大学図書館エントランスホール

パート2 サンフランシスコにおける貧困・ホームレス・HIV — 現状とケア体制 —

と き：11月30日(金) 9:00～10:30

と ころ：関西学院大学図書館ホール

講 師：Barry D.Zevin氏（医師）

通訳あり

●キリスト教と文化研究センター主催講演会

「日本人の心に届く『ことば』を求めて」－津波を越えて、闇から光へ－

山浦玄嗣（やまうら はるつぐ）氏講演会

と き：11月19日(月) 11:10～12:40

と ころ：関西学院大学G号館教室202教室

●第192回ランバス演奏会のご案内

「パーセル&キャロル」

平井満美子（歌）、佐野健二（リュート）

演 目：夕べの賛歌、美しい島、さよなら美しい人、リュートブックララバイ、ほか

と き：12月6日(木) 17:00開演

と ころ：ランバス記念礼拝堂（西宮上ヶ原）

主 催：関西学院宗教センター <入場無料>

平井満美子と佐野健二のデュオは世界でも数少ないルネサンス、バロックリュート歌曲のスペシャリストです。現在までに発売されたデュオCD全ては雑誌「レコード芸術」の推薦盤に選ばれ、デュオリサイタルに対しては「大阪文化祭本賞」を受賞するなど各方面から注目されています。

●「関西学院クリスマス at ザ・シンフォニーホール」チケット販売のお知らせ

恒例の関西学院最大のクリスマスページェントが大阪のザ・シンフォニーホールで開催されます。参加費はチャリティーとしてアジアにおける奉仕活動などのために献金させていただきます。

開 催 日 時：12月21日(金) 17:30開場 18:30開始

参 加 費：2000円

チケッ ト 販 売：関西学院大学生協／チケットぴあ／ザ・シンフォニーホールプレイガイド

発 売 開 始 日：11月1日(木)

コラム：関西学院紹介(3)「初等部」

初等部は、2008年度に宝塚ファミリーランド跡地に設置されました。3学年でスタートし、2011年度に6年生まで全学年が揃いました。2012年4月には初めての卒業生が共学になった中学部に進学しました。定員は1クラス30名（基本男女各15名）で、1学年は3クラスです。教員数は、専任・契約教員29名、非常勤講師12名です。学費は年額100万円です。

教育の特色としては、キリスト教主義教育の徹底と国際教育の重視とエルダーズシステムという関学生との交流が挙げられます。「こころの時間」として毎朝、15分間礼拝が持たれているのを始め、始業礼拝、終業礼拝、イースター礼拝、ペンテコステ礼拝、花の日礼拝、収穫感謝礼拝、クリスマス礼拝が行われます。英語は、「光の時間」として全学年毎日20分間の授業があります。3年生からは1クラスを半分に分けて「英語・国際」の授業を行っています。カナディアン・アカデミーとの交流、関学留学生との交流、カナダへの修学旅行と英語の実践の場も設けています。エルダーズシステムは、関西学院スポーツオムニバスとして各学年が体育会各クラブの指導を受けています。また、水泳教室、キャンプ、入学式、卒業式でもクラブ及び有志学生の協力を得ています。今後とも初等部は一丸となって色々な困難と立ち向かいながら新たな飛躍を目指していきます。